

83

特 249

201

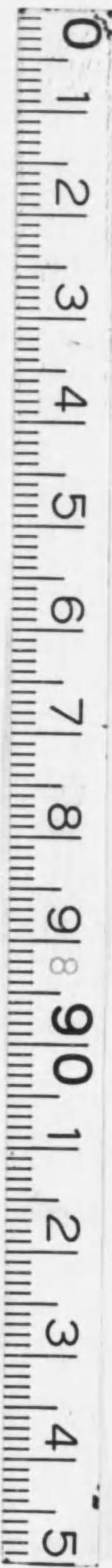
國民精神總動員の根本

創生會顧問
九州日報社長

清水芳太郎著

定價金拾錢

創生會朝倉郡支出版部發行



始



國民精神總動員

祈 國威宣揚
武運長久

舉國一致 堅忍持久

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 中 | 緒 | 畑 | 具 | 平 | 大 | 森 | 多 |
| 島 | 方 | 井 | 島 | 田 | 武 | 部 | 田 |
| 茂 | 久 | 繁 | 得 | 千 | 正 | 隆 | 勇 |
| 喜 | 一 | 四 | 眞 | 代 | 人 | 輔 | 雄 |
| | 郎 | 郎 | | 松 | | | |

國民精神總動員の根本

清水芳太郎述

今日の戦争は思想戦、經濟戦、武力戦三方面から戦ふのでありまして、いづれの方面も重大であります。今日國民精神總動員といふ事が叫ばれてゐますのは、今日の非常時に於ける思想戦線の強化を目的とするものであると思はれます。

戦争の場合、思想戦の大切なことは最近に始まつたことではないのでありまして、戦争の神様と昔から尊ばれて來ました孫子も、その第一篇に述べてゐますことは皆様御承知の通りであります。孫子は戦争に大切なことが

五つあると申して居ります。その五つの内で一番大切なものが何であるかといふとそれは道であると述べてあります。戦争に一番大切なものは味方が道に叶つゐることだと申しゐます。正義人道に叶つてゐることだと申しゐます。更に孫子は説明を加へて申しますに「道は民をして上と共に死すべく上と共に生くべし、危きを恐れざらしむ」と申してゐます。もし戦争の場合、味方が正義人道に合つてゐますならば國民政府の命令をよく聞き、その戦争のためには身命を捧げて戦死することをしていひません。しかしながら味方が正

しくないといふことになる。兵士の元氣は振ひ起らない。戦死をいとふことになりす。

幕末に近藤勇といふ強い豪傑が居つて劍道の達人ばかりをかり集め新選組といふ強い團體を造つて京都の町に蟠居し、明治維新の志士を斬りなやましたことはお互によく知つて居る史實であります。この天下の劍客ばかりを選びに選つて集めた新選組も一人去り、二人去り段々淋しくなつて、つひには指折り數へる程の人數に減つて終ひました。それは新選組の人達が浪人者と馬鹿にしてゐた志士達の尊王攘夷の主張を聞くと段々尊王の大義が新選組の人達にも理解されて來たからであります。たゞ浮浪の徒がいたづらに世を騒がせるのみ思つてゐた所が志士の叫びを聞くと段々尊王の大義に従はざるを得なくなつたので

あります。そして一人去り、二人去り殆んど新選組を去つてしまつたのであります。たゞ武力だけならば或は維新の志士よりも新選組の方が強かつたかも知れませんが。しかしながら新選組は思想戦に於て既に敗けてゐたのであります。近藤勇もおしまひには『これから五十年も後になればこの近藤は日本一の大馬鹿者と笑はれるであらう』ともたらしたと傳へられてゐます。既にこうなれば、特に大將自身自分が悪いことをしてゐるのだといふ氣になれば戦ひには勝てません。

[2]

孔子様は自ら顧てなほよくんば千萬人といへども我行かんと仰せられました。人間が一番強い時は、自分が正しいと思つた時であります。自分が義憤に燃えた時であります。かつてルーテルが宗教革命を叫びました時、

ローマ法王から出廷を命ぜられました、その時弟子や友人達は心配して、もしローマ法王の前に出れば必ず身邊が危険と思ひますからこの場をのがれて下さいと、すゝめました。所がルーテルは申されました。よし悪魔の數はウォルムズの市の瓦の數程あるうとも何の恐れることがあろう。心配無用だと言はれてローマに出て行きました。人間といふものは義憤に燃えた時が一番強いのであります。そこで今日の如く五十萬百萬といふ軍隊を動員し全國民が直接間接これに干與するといふ様な大きな戦争になると全國民が義憤に燃え全國民が正義に燃え立つ様な思想的根據が無いと戦争に勝てないのであります。思想戦に於いて既に勝つてゐなければ經濟戦も武力戦も敗けるのであります。

しからば日本は今日如何なる理由、如何なる正義、如何なる理想に基ずいて支那と戦ひつゝあるのであるか。それは精神的側面からも、經濟的側面からも、政治的軍事的側面からも説明されなくては完全ではありません。ロシアの如きは共產主義を以つて思想戦の戦法としてゐます。従つて經濟的側面からも説明される必要があります。しかしながら今週は國民精神總動員週間でありますから精神的側面だけの御話を進めたいと思ひます。

[3]

御説明申し上げるまでもなく、我國は神代の古よりその精神的基礎は確立してゐるので御座りまして、建國の當時、神武天皇もその建國の御勅語に明白にのたまはせられて御座ります。數千年も前は野蠻未開であつたらうとお考へになる御方もあらうと思ひますが、

宗教的側面精神的側面に於ては寧ろ古の方が今日より優れて居ります。印度にも數千年前御産れになつた御釋迦様程の大宗教家は今日御座りませんし、ユダヤにも支那にもイエス様や孔子様程の偉い思想家は居りません。我國でも同じことであります。神武天皇は徒らに兵を起して大和を御平定遊ばされたのでありません、領土の侵略や他民族の搾取が目的で大和を御征服になつたのではありません。皇祖の大理想をこの世にひろめんがために御東征遊ばされたのであります。

◆
◆
今私共は神武天皇建國の勅語の一句をかりて精神總動員の根本を茲に明かにしたいと思ひます。もしこの建國の勅語から全國民の皆様が御存知の一句をあげますならば、それは八紘一字でありませうこの御勅語は長いもの

ではありませんが、全部御記憶なくとも八紘一字の一句は周く皆様御存じであられます。あめの下を蔽ひて家となさんことまたよからずやといふ一句であります。八紘は四方八方といふことで世界中のことであります。一字は一つ家一つの家族のことであります。世界中を一つの家族となさうといふ御宣言であります。この御意味は少しく御説明を加へませんと御子供様方には分りにくいと思ひます。家といふのは家長が居りましてその下に老人や女や子供が居るのが家族であります。一番智慧の多い、一番能力の高い一番強い人が家長になるのであります。戸主になるのであります。この一番智慧のある一番強い家長が自分より弱い老人や自分より弱い女や子供をだましたり搾取したりするかごさうではありません

[4]

。家の主人は一番働きます。そして収入も一番稼いでできます。しかし子供が病氣したり老人が病氣したりするとその収入の大部分は弱い老人や子供が一番使ふこともありませう。一番強い家長は自分より弱い家族を搾取するのではありません。所が今日の國際的現實は何であるかと言へば弱肉強食であります。弱い國弱い民族の肉を強い國強い民族が食ふといふのが今日の世界の現實であります。家族主義の秩序と申しますのは強い者が弱い者のために働いてやる制度であります。社會に於ては智慧のある者は智慧のない者をだまします。しかしながら一家の内に於て一番智慧のある家長は家族を決してだましません。彼等を教育し、彼等を教へ導きます。現實の世界に於ては、力のあるものは即ち権力をもつもの、金力を持つもの、腕力を持つものはこの力を

濫用します。自分より弱いものを押へつけます、自分より弱いものを強制します。自分より弱いものを搾取致します。しかしながら一家の家長は一番強いけれども決して自分より弱い家族を強制したり搾取したりしません。家長は自分のためにその力を用ひず家族のためにその力を用ひます弱肉強食の現在の世界がもし家族主義の國際秩序と變るならば、その時こそ世界には平和が來ませう世界中で一番強い國が弱い國々のために働いてやる制度に變りますならば始めて世界は平和になりませう。今日の如く強い國が興るとその國は自分より弱い國をいじめます。そして搾取します。その弱い國は強い國をうらみませう。そして機會さへあれば仇を討たうと一生懸命努力します。そしていつまでもかやうにして戦ひがつづくのであります。弱肉強食に代るに八紘一

[5]

宇の世界秩序を樹立しようとするのが我が國建國當時からの外交の根本であります。日本が世界で一番強くなつて弱い國々のために弱い民族の幸福のために働いてやらねばなりません。

◆

◆

日本は支那をいじめめるではありません。人類の幸福を毒する共産主義を採用しようとしたり、イギリス等の勢力をかりて日本に敵對しようとしたりする現在の支那の少數政治家を膺懲してゐるのであります。共産主義が支那に入れば支那の國民は非常に苦しまねばなりません。支那が白人と協力して日本と支那と争ひ、共に弱くなれば支那は獨立を失ひます。日本は神武天皇様が大和を御東征になつたと同じ八紘一宇の大理想を擴大するため今日支那と戦ひつゝあるのであります。支

那の獨立を尊重せねばならぬことは申すまでもありません。日本が滿洲に伸びたために滿洲の國民は年々幸福になりつゝあります。八紘一宇の秩序が少しでも廣まれば廣まる程人類は幸福になる譯であります。八紘一宇の理想が私が今申し述べました様な内容であるかどうか御疑ひの方があろうと思ひます。私が勝手にこじつけたのだらうと御思ひになる方もあろうと思ひますので、更に他の方面からこの思想を御説明することに致しませう。

◆

◆

我國には澤山の部落があります澤山の村があります。その澤山の部落には必ず氏神様があります。我國の神様はキリスト教のエホバ神やマホメット教のアラーの神や佛教の如來や觀世音菩薩や不動様等とは異なるのであります。我々日本民族の先祖が日本の神様であり

[6]

ます。日本の神は過去に實在した日本人であります。氏神は多くの場合、その民族その部落の先祖を祭つたものであります。日本民族特有の宗教は自分達の先祖を祭ると言ふこととであります。日本の神を祭ると言ふこと、キリスト教の神を禮拜する讚美すると言ふこととの間にも多少の差があります、佛に歸依すると言ふこととの間にも多少の異があります。まつるといふ言葉の意味は禮拜とか讚美とか歸依するとか言ふことではありません。二つ以上のものが合一すると言ふ意味であります。まつる、まつりごと、まつらう、まつ（待つ、友人の來るの待つ）の待つです。松（杉の松です）町等は皆な同じ合一の言葉から出た言葉であります。母親が遊びに出た子供の歸りを待つと申します。その待つは相離れたものが一緒にならう合一しようと言ふことであ

ります。二本の葉がつきねで合一してゐるから松葉と言ふのでありませう。大勢の人々が集つてゐるから『まぢ』と申すのでありませう。御祭は神と人との合一を言ふのであります。五本の指を合せ二つの掌をバチ／＼と合せて神を拜みます。その様に離れ勝ちの神と人とが合一しようとなつて努力することを『まつり』と申すのであります。

◆

◆

氏神を祭ると言ふことは先祖様と合一するすると言ふこととあります先祖と合一すると言ふことはどう言ふこととあります。その部落の五代なり五十代なりのおぢいさんに合一するといふこととあります。そのおぢいさんになつて見れば、其の部落民全部が自分の何代か後の孫であります。部落民全部が自分の孫であります、一人として憎いものがある

[7]

う筈はありません、親と言ふものは馬鹿な者程氣になります、貧しい者程氣になります。もし村長さんが氏神に合一しますならば、村中の者は一人残らず可愛ゆうてならぬことになりませう、馬鹿な者程氣になりませう。貧乏な者程氣にかゝりませう、餓食兒童などあれば夜も眠れぬ筈であります。親は道樂者や怠け者が生れるとこれを一人前の人間に改心させるために夜も眠れぬ有様であります。もし村長さんが氏神に合一してゐますならば村の怠け者の道樂者を改心させるために日も夜も苦勞するであります。村の人々が村の先祖の氣持ちに合一しますならばお互に兄弟であります、お互に助け合はずに居られませんか。同じ一人の先祖から分れた村中のものが、どうしてお互に喧嘩ができません。



部落には氏神がありますが更に郷社とか縣社とか國幣社とか官幣社とか言ふ大きな神社があります、それらの神社も皆日本民族の先祖様であります。天照大御神様は私共の先祖の先祖様であります。しかしまだその上にイザナギ、イザナミの神様の如きもつと更にさかのぼると最後に天の御中主の神に至ります。此の神様は人間ばかりでなく宇宙萬物の最初の先祖様であります。天皇様は天照大御神やイザナギ、イザナミの大神や天の御中主の神様方を御祭りになります。即ち之等の神様と合一遊されるのであります。もし天の御中主神に合一致しますならば宇宙萬物、石ころ一つと雖も可愛ゆうてならぬ筈であります。此の御心を萬民に及ぼし給ふのが日本のまつりごとであります。天皇様が神様に合一されそしてその神の意志を更に國民に及ぼすこ

とが日本のまつりごとであり、國民から天皇様に合一することがまつらうと言ふことでもあります。そして天皇様を我々は大御親と申し上げるのであります。斯の如く御親の政治、家族主義の政治が部落から國家を貫いてゐるのであります、更に全世界に此の政治形態を擴めようと言ふのが八紘一宇の御宣言であります。



皆さん、親と言ふものは自分の子供が自分より偉くなることを此の上もなく喜びます。世の中の人はやゝもすると自分より偉くなることをうらやみもしねたみもし妨害するものなどあります。もし今日の政治家や官吏が自分の部下から自分より偉いものを育て上げることに喜びを感じてゐますならば日本の政治は段々發達しよくなつて行きませう。勝海舟

先生は今を時めく、伊藤、山縣、井上、大隈諸公を評して、今の奴ら偉さうなことを言ふが二番なりぢやと申しました、ナスビでもキウリでも一番なりは大きい、二番なりは小さいです。明治時代も西郷、木戸、大久保の如き一番なりがなつてから伊藤、山縣の如き二番なりがなつたのであります。それから三番なり四番なりと今日まで續いてきました。皆な自分より少し小さい自分の言ふことを聞く者を部下として採用するから少しづつ小さくなるのであります。自分より子供を偉く育てたいのが親の本心であります。日本の御親の政治日本の家族主義の政治を體得できました人は自分より偉い者を部下から育て上げようと努力せねばなりません。さうすれば村の政治も縣の政治も國の政治も日に日に發達して行きづまることなく公明正大なものになりませう。

皆さん、世間では地震、雷、火事、親父と申します。父のことを地震や雷と同じ様におそろしいもの、こわいものであると申します。世間では陰口悪口は言ひますが、自分に面と向つて忠告して呉れないものです。面とむき合へば極力ほめるが、陰に廻れば自分の缺點を批評するものです。釋尊は、彼に向つては彼の短を言へ他に向つては彼の長を言へと教へました。親は子供の缺點はできるだけかかします。しかし子供に向つてはその缺點をやかましく申します。特に父は子供の良い所は言はず缺點ばかりを叱るものであります。従つて父は雷と同様こわいものであります。私共は多くの場合他人の缺點はできるだけ宣傳し本人に向つては忠告しないことが多いのであります、それでは本人は改心致しません。本

人の缺點を出来るだけ忠實に忠告して正しい人間になつてもらいたいと一切の人々に念願せねばなりません。親が道樂息子を持つた時の様な氣持ちになれば周囲の人々は淨化されずにはゐられません。特に重要な地位にある官吏や政治家に希望する譯であります。又支那事件も子供を叱る親心からであらねばなりません。

親は又馬鹿なもの無能なもの程可愛いのであります。世の中は寧ろその反對であります。花散りうせては薪に賣られ、家貧しくして人に捨てらると昔の詩人をして歎かしめたのが世の多くの事實であります。多くの人は金を持ち権力をもつ人に注意を向けるものであります。しかるに親は貧しき者愚かなる者程氣になります。子に關する限り如何に不完全

な人間と雖も親としては神であります、もし日本のまつりごとが今日復興されますならば、そして今日の政治家官吏が日本固有の政治を實踐しますならば全國に一人の缺食兒童もなくなるであります。一人のなやめるもの一人のルンペンも無くなるであります。

宇宙の萬物悉く山も川も草も木も人間も天の御中主の神から産れ出たのであると言ふのが日本の信仰の中心であります。萬物悉く神の御末であります。我々は神の園に住む神なのであります。でありますから、私共の先祖は山を拜み川を拜み海を拜み太陽を拜み星を祭り植物を祭り動物を祭り動物を祭り人間を祭りました。私共は他人に會へば頭を下げます、お互に拜むのであります。今日は形式だけ残つてゐますが、本當に心から一切の人を

拜まねばなりません。支那人も蒙古人も天の御中主の神の御末であります。日本人が支那人も蒙古人も拜むことができなければ、日本の東洋政策は成功しないのであります。日本民族は五種も七種もの民族が融合したものであるとされてゐます。此等の多くの民族が融合したのは天孫民族が敵をも拜む抱擁力を持つてゐた信仰の力でありませう。ニギハヤヒの命も猿田彦の如き大山住の神の如き他民族の神を祭られ。神武天皇も天孫族の神と土着民の神即ち國ツ神とを合せ祀つられた事は書紀に明記されてあります。缺食兒童を神の御末として拜む氣持が日本の政治家に出て来るまでは國內問題は片づかないのであります。他民族を拜む氣持が日本民族に復興しなければ、日本の東洋政策は完成しないのであります。

今から三千年以前に於て諸民族を融合した日本民族が今や東洋と言ふ大きな範圍で諸民族の融合を任務とせねばならなくなつてしました。今日島國根性化された日本人がそのまゝ、大陸に渡つてもどうかと思ひます。かつて雄渾なりし神代日本の宗教思想を再び復古せねばならぬと思ひます。弱肉強食を根底とした英國の世界支配力も今や終りを告げんとしてゐます。弱肉強食に代ふるに八紘一字を以てせねば世界の平和、世界の幸福は來ません。支那事變は三千年前神武天皇御東征の延長で

あり、我が八紘一字の大理想を實現すべき聖戰であります、重ねて申します、強い國が弱い國々のために働いてやる制度が實現されるまでは世界平和はまゐりません。

『終』

今日の主張

精神運動

近代戰は思想戰、經濟戰、武力戰の三つを

方法とする。ロシアを吾等の祖國と呼ぶ様な

者すら或時代には日本にも存在したのである斯様な場合ロシアと戦へば日本に不利なことは言ふまでもない。レーニン革命が成立した時日英米佛は東西からロシアを攻めた。その時英佛兩國の勞働者はストライキを起してレーニンの革命政府を攻める事に反對した。英國では運輸勞働組合がストライキをしたので兵糧も彈藥も送れなくなつた。そして何のことも分らず英佛も日米もロシアから兵を引いた。ロシアはその當時既に思想戰に勝つてゐたのである。従つて武力戰も遂に勝利に歸したと言へる。ドイツも大戰の最中に共產革命が起きて遂に倒れた。イギリスはドイツに爆彈を落して見た。けれどもその結果はドイツの戦線が益々敵愾心に燃えて強くなること分つた。そこで宣傳ピラをまいた。それは共產革命を刺戟するものであつた最初の内は何の

氣なしに讀んでゐたが、飢えたる國民は段々その思想に共鳴しつひに共產革命となつて參謀本部や政府や宮殿を燒きうちするに至つた。これ又思想戰に破れたるものと言はねばならぬ。

◆ ◆
信長は戰の前に皇室の尊嚴を説き、皇室の前に一致すべきをたて前として戰國時代の統一を圖り秀吉も亦その思想戰を受けついで。足利の貴さのみを知つてゐた多數には大きな刺戟を與へた。又明治維新に於ても徳川の貴さを知り皇室の尊嚴を忘れた所に、志士の思想戰が展開された。今日この戰時状態に於て國民的精神運動が提唱されてゐるのは結局共產主義によつて國內が結束を破り或ひは混亂せざらんが爲めと、更に進んでは全國民の熱狂を呼び起すであらう所の日本の大理想を高

く國民に呼びかけようといふのである。部隊長等が先づ先頭にたつて進むことは今回の戦争の特色である。之はやはり國民思想の變化を示すものであらう。愛國の熱情に於てかはることはないであらうが、時代的に國民の思想は變化する。今日行はれてゐる所のものは思想運動の序幕である。共產主義以上の經濟思想、立憲政黨政治以上の政治思想これからが現れて全日本國民を熱狂させねばならぬ。そのために死するとも、悔ひざる思想が産れなければならぬ。山陽や松陰が時の青年を熱狂せしめた様に。

十二年九月二十八日記

昭和十三年二月一日印刷
昭和十三年二月七日發行

【定價金拾錢】

創生會朝倉郡支部出版部編

福岡縣朝倉郡立石村大字來春三二六番地

編輯兼 發行人 牧 辰 夫

不許
複製

福岡縣朝倉郡甘木町大字甘木二三番地ノハ
印刷所 朝陽社印刷部

福岡縣朝倉郡立石村大字來春三二六番地

發行所 創生會朝倉郡支部出版部

九州水力電氣株式會社
甘木營業所

朝倉郡甘木町

朝倉軌道株式會社

朝倉郡三輪村

筑後電氣株式會社

筑後田主丸町

朝陽新報社

甘木下新町

捷 戰 祝

間 週 調 強 員 動 總 神 精 民 國

久 持 忍 堅 · 致 一 國 舉

鄉 澄 水 の 畔 川 後 筑

(所 名 の 飼 鶴)

原 鶴 溫 泉

日 南 溫 泉 協 會 加 盟 小 野 屋

電 話 (杷 木) 四 十 九 番

福 岡 福 岡 更 一 時 間 半
久 留 米 久 留 米 更 一 時 間
久 大 線 吉 井 驛 更 一 時 間 半

終

79
3